

令和5年度 教育委員会の点検・評価報告書



授業導入時における体づくり運動
(音楽を聴きながらのリズムトレーニング)



I C T を効果的に活用した意見交換

令和6年8月
四日市市教育委員会

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」）に基づき、四日市市教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行っています。また、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、広く市民に公表しています。

地教行法には、教育委員会が点検・評価を行う際には、学識経験を有する者の知見の活用を図ることが示されており、本市教育委員会でも、四日市市教育施策評価委員を委嘱し、専門的・客観的な立場からの提言・助言をいただきながら、本市の学校教育ビジョンを基盤とした教育施策について、点検及び評価を進めています。

令和3年1月に策定した「第4次四日市市学校教育ビジョン」では、本市の教育大綱の理念を踏まえて、本市の学校教育が目指す子どもの姿を明らかにし、方向性を示しました。本ビジョンは「子どもにつけたい力」と「子どもを学びを支える学校づくり」の2つの観点から、具体的な施策を定めており、5つの基本目標「1. 確かな学力の定着」「2. こころとからだの健全な育成」「3. よりよい未来社会を創造する力の育成」「4. 全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現」「5. 学校教育力の向上」を位置付けています。

令和5年度は、多様な人権を尊重し、差別やいじめを許さない子どもの育成を図るために、基本目標「2. こころとからだの健全な育成」のうち「人権教育の充実」を、また、体を動かすことの楽しさを知り、主体的に運動に親しむ子どもの育成を図るために、「体力・運動能力の向上」を重点評価項目に設定し、学校視察等を行いました。さらに、「情報活用能力」を基盤として、生涯にわたって自ら学び続け、他者と協働して未知の課題を解決できる基本的な資質・能力の育成を図るために、「ICTの効果的な活用（四日市市GIGAスクール構想）」に係る取組について、継続して取組状況を把握する項目として、学校視察を行いました。

また、施策の具体的な実施状況や達成状況については、視察を行った教育施策評価委員から、客観的かつ専門的な提言・助言をいただくとともに、コロナ禍の3年間で生じた学校教育活動や児童生徒への影響を踏まえた協議を重ねることで、点検・評価を行いました。

これらの評価をもとにして、夢と志を持った子どもの育成に向けた本市の教育施策が、さらに有効となるよう、また、今後も本市の学校教育がより充実したものとなるよう、取組を進めてまいります。

令和6年8月 四日市市教育委員会

目 次

1	点検・評価の概要	1
2	教育委員会の活動状況について	2
3	四日市市教育施策評価委員の取組について	5
4	令和5年度の重点評価項目とその評価	6
5	継続評価項目とその評価	11
6	基本目標の達成状況	19
7	教育施策評価委員の提言及び助言（総括）	30

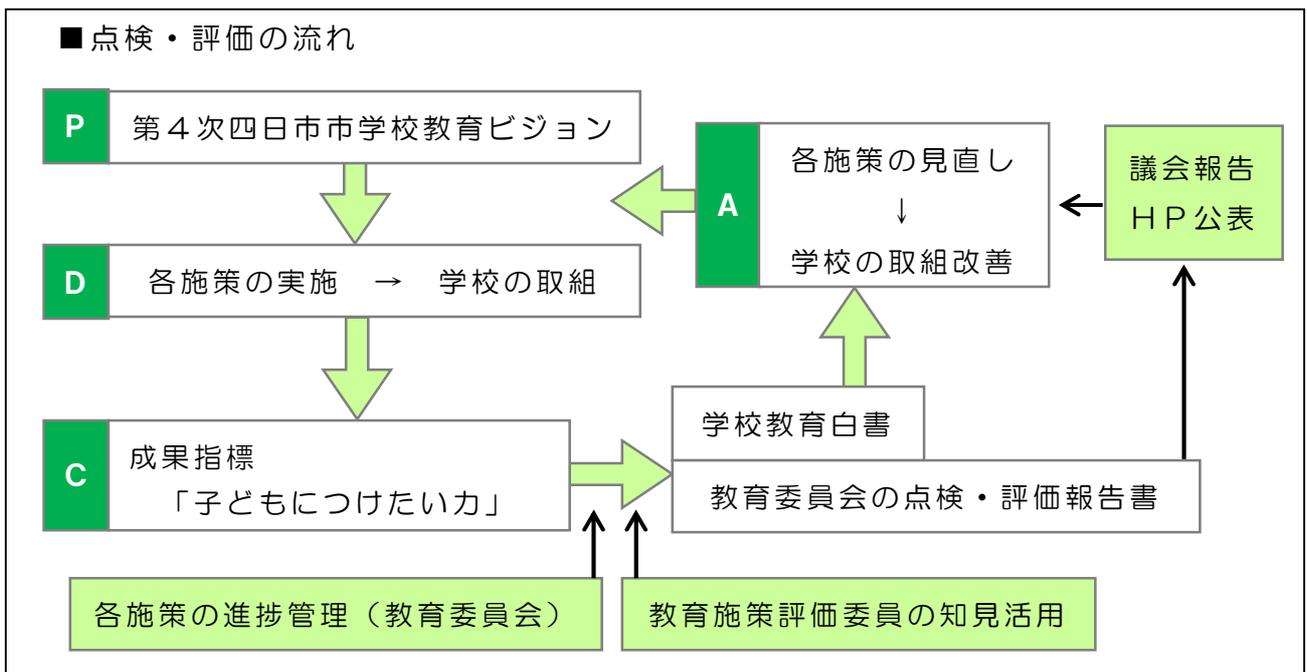
1 点検・評価の概要

平成 19 年の地教行法の一部改正に伴い、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。

本市教育委員会では、平成 21 年度から四日市市教育施策評価委員を委嘱し、専門的・客観的な立場からの提言や助言をもとに、学校教育ビジョンを基盤とした教育施策全般について、点検及び評価を進めています。学校教育ビジョンは、学校教育の根幹として位置付けられるものであることから、成果指標に基づく評価を実施します。全ての基本目標において成果指標に基づき「子どもにつけたい力」「子どもの学びを支える学校づくり」を評価することで、ビジョンの進捗管理を行っています。

評価の実施にあたっては、年度ごとに、特に重点的に点検・評価すべき項目を協議・選定し、教育施策評価委員による学校視察等や、教育委員会委員との懇談・協議を行ったうえで、施策実施状況を含めた総括を行い、報告書として取りまとめます。報告書は、市議会に報告するとともに、ホームページに掲載するなど、広く市民に周知します。

教育委員会		教育施策評価委員	市議会
10月	重点評価項目選定	11～2月 視察・施策評価	
11月	各評価項目決定		
3月	視察概要報告		
5月		執行状況調査（事務局との懇談）	報告書提出
7月	協議（点検・評価の総括）		
8月	報告書作成・公表		



2 教育委員会の活動状況について

(1) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、年間 16 回（臨時会 2 回を含む）開催し、議案 23 件、協議事項 7 件、報告事項 32 件、請願 1 件について、審議等を行いました。

開催日	種別	議案、協議事項、報告事項
4 月 5 日	議案 請願 報告	<ul style="list-style-type: none"> 専決処分の報告及び承認について （令和 5 年 4 月 1 日付け市職員の人事異動について） 外部団体への個人情報提供に関する請願について 令和 4 年度の教育委員会における点検及び評価について
4 月 19 日	議案 報告	<ul style="list-style-type: none"> 四日市市教育支援委員会委員の委嘱又は任命について 四日市市子どもの読書活動推進計画(令和 5 年度改訂版)について 令和 5 年度教育委員会主要課題について
5 月 17 日	議案 協議 報告	<ul style="list-style-type: none"> 四日市市立博物館協議会委員の任命について 四日市市立図書館協議会委員の任命について 四日市市少年自然の家運営協議会委員の委嘱又は任命について 四日市市社会教育委員の委嘱について 四日市市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱又は任命について 令和 5 年度教科用図書採択について 教職員の働き方改革に関するアンケート調査の結果報告について
5 月 24 日	議案 報告	<ul style="list-style-type: none"> 工事請負契約の締結について —博物館受変電及び発電機設備更新工事— 令和 4 年度の教育委員会における点検及び評価について 令和 4 年度繰越事業について いじめに関する調査報告について
5 月 31 日 (臨時会)	議案	<ul style="list-style-type: none"> 四日市市いじめ問題対策調査委員会委員の委嘱について
7 月 12 日	報告 協議	<ul style="list-style-type: none"> 令和 5 年 6 月定例月議会の報告について 令和 4 年度の教育委員会における点検及び評価について
7 月 19 日 (臨時会)	報告	<ul style="list-style-type: none"> 「よっかいち 30 人学級編制」該当校への対応について 本市におけるいじめ事案について
7 月 26 日	報告 議案	<ul style="list-style-type: none"> 小規模特認校制度導入について 令和 6 年度使用小学校用教科用図書の採択について
8 月 9 日	協議 報告	<ul style="list-style-type: none"> 四日市市いじめ防止基本方針の改定について 委任事務の報告 （令和 4 年度中に教育委員会が行った行政処分について） 令和 4 年度決算について 令和 5 年度 8 月定例月議会補正予算について 令和 4 年度本市におけるいじめ・不登校の状況報告について
10 月 11 日	協議 報告	<ul style="list-style-type: none"> 令和 5 年度の教育委員会における点検及び評価について 新図書館に関する市民意見の意見聴取について 令和 5 年 8 月定例月議会の報告について 小規模特認校制度導入に向けて 本市におけるいじめ事案について
11 月 1 日	議案 報告	<ul style="list-style-type: none"> 四日市市立幼稚園条例の一部改正について 令和 5 年度全国学力・学習状況調査結果の分析について 令和 5 年度の教育委員会における点検及び評価について 本市におけるいじめ事案について

11月15日	議案 報告	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校保健室等空調設備整備事業に係る事業契約の締結について ・工事請負契約の締結について — 博物館エレベーター改修工事— ・四日市市立図書館充実基金条例の制定について ・令和5年11月定例会議会補正予算について ・令和6年度当初予算要求の概要について ・小規模特認校制度導入について
1月17日	協議 報告	<ul style="list-style-type: none"> ・新図書館の諸室構成案について ・令和5年11月定例会議会の報告について ・本市におけるいじめ事案について
1月31日	議案 協議 報告	<ul style="list-style-type: none"> ・四日市市立幼稚園条例の一部改正について ・工事請負契約の締結について — 高花平小学校運動場整備工事— ・工事請負契約の締結について — 川島小学校長寿命化改修工事（1期工事）— ・工事請負契約の締結について — 八郷西小学校長寿命化改修工事— ・工事請負契約の締結について — 中部中学校管理教室棟保全改修工事— ・工事請負契約の締結について — 常磐西小学校南校舎大規模改修工事— ・工事請負契約の締結について — 三重西小学校大規模改修工事（2期工事）— ・動産の取得について— 移動図書館車1台— ・四日市市学校規模等適正化事業について ・令和6年度当初予算について ・令和6年2月定例会議会補正予算について ・橋北中学校で実施したワイ！ワイ！GIKAIについて
2月28日	議案	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度教職員の人事異動について
3月21日	報告	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の教育委員会における点検及び評価について ・令和6年2月定例会議会の経過について ・教育委員会ホームページについて

(2) 教育委員会会議以外の教育委員の活動状況

① 教育懇談会の開催

教育委員会必携（全国市町村教育委員会連合編）では、「教育委員が会議において活発な議論を行い、適切な判断ができるよう、当面する教育行政の課題について理解を深めるための教育委員の研修の一層の改善・充実を図ること」としており、本市においても教育委員の研修の場として、教育懇談会を年間9回開催しました。



開催日	テーマ	会場	出席者
4月21日	学校における働き方改革について	教育委員会室	学校業務改善アドバイザー 妹尾昌俊氏
4月26日	読書活動の充実について (読書活動推進校の取組)	塩浜小学校	学校図書館司書 図書ボランティア
5月31日	中学校給食について	港中学校	栄養教諭
7月5日	教科用図書の見本の閲覧	教育委員会室	指導主事
7月19日	本市の教育施策について (教育施策評価委員会)	教育委員会室	施策評価委員

8月2日 ※延期	支援の必要な子どもへの途切れない支援について	あけぼの学園	—
10月25日	学びを支える指導体制の充実について ～少子化に対応した活力ある学校づくりの推進～	水沢小学校	PTA 会長 きらら推進委員会委員長
11月8日	支援の必要な子どもへの途切れない支援について	あけぼの学園	あけぼの学園（園長・副園長・参与） こども発達支援課
1月10日	市立図書館新設に係る視察	江南市立図書館	江南市立図書館長 江南市生涯学習課担当
1月24日	第4次四日市市学校教育ビジョンにおける施策の現状及びこれからの本市の教育について	教育委員会室	課長補佐 グループリーダー 指導主事

②総合教育会議への出席

四日市市では、市長と教育委員会が相互の連携を緊密にしながら、地域の実情に応じた教育行政を推進するため、四日市市総合教育会議を開催しています。令和5年度には2回開催され、市長との協議を行いました。

開催会（日）	協議事項
第1回（7月31日）	・新図書館整備について ・児童生徒への持続可能なきめ細かい指導・支援のあり方について
第2回（1月22日）	・近年の教育を取り巻く変化と今後の教育のあり方について ～四日市市総合計画 中間見直しを見据えて～ ・小規模特認校制度の導入について（報告）

③各種行事、学校訪問等

上記のほか、市主催の行事や教育委員会指定推進校における公開授業研究会、施策評価に係る学校視察などに各委員が出席しました。

開催日	行事、学校訪問等	場所	出席者
4月28日	第3回四日市市教育施策評価委員会 本市教育の施策評価に係る現場視察 (主体的・対話的で深い学びの実現)	中央小学校	伊藤委員 豊田委員 数馬委員 堀委員
10月5日	I C T実践推進校公開授業研究会	橋北中学校	堀委員
11月7日	人権教育推進校公開授業研究会	富洲原小学校	豊田委員
11月17日	I C T実践推進校公開授業研究会	西朝明中学校	堀委員
11月22日	教科担任制研究推進校公開授業研究会	橋北小学校	数馬委員 堀委員
11月29日	道徳教育指定推進校公開授業研究会	常磐小学校	堀委員
11月30日	論理的思考力向上推進校公開授業研究会	内部東小学校	堀委員
1月8日	20歳（はたち）を祝う会	四日市市文化会館	伊藤委員 豊田委員 数馬委員 堀委員

3 四日市市教育施策評価委員の取組について

四日市市教育施策評価委員からの専門的・客観的な提言や助言をもとに、点検及び評価を進めています。

(1) 四日市市教育施策評価委員設置目的

- ① 教育委員会が、地教行法の一部改正に伴う、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」を実施するにあたり、教育に関して学識経験を有する者の知見の活用を図る。
- ② 本市の学校評価のシステム全体を検証するとともに、教育委員会が学校に対して行う施策の改善に資する。

(2) 令和5年度四日市市教育施策評価委員

織田 泰幸 (三重大学教育学部教授)
高田 晴美 (四日市大学総合政策学部教授)

(3) 取組の経過

① 第1回教育施策評価委員会 (視察)

【日時】 令和5年12月15日 (金) 13:30~15:30

【場所】 四日市市立山手中学校

【内容】 人権教育の充実

② 第2回教育施策評価委員会 (視察)

【日時】 令和6年1月23日 (火) 9:30~11:00

【場所】 四日市市立塩浜中学校

【内容】 体力・運動能力の向上

③ 第3回教育施策評価委員会 (視察)

【日時】 令和6年5月1日 (水) 9:20~11:30

【場所】 四日市市立浜田小学校

【内容】 ICTの効果的な活用 (四日市市 GIGA スクール構想)

④ 第4回教育施策評価委員会 (事務局との懇談)

【日時】 令和6年5月29日 (水) 9:30~12:00

【場所】 四日市市役所9階 教育委員会室

【内容】 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の調査等について

令和5年度評価項目について、その執行状況を調査するために、施策評価委員と事務局との懇談を実施した。

⑤ 第5回教育施策評価委員会 (兼教育懇談会)

【日時】 令和6年7月17日 (水) 9:30~11:30

【場所】 四日市市役所9階 教育委員会室

【内容】 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価について

令和5年度教育委員会の点検・評価報告書及び令和5年度版四日市市学校教育白書 (通巻第22号) (案) の調整を行った。

4 令和5年度の重点評価項目と評価

令和5年度に選定した重点評価項目と視察の概要及び評価は以下のとおりです。

重点評価項目

【基本目標2】こころとからだの健全な育成（人権教育の充実）

【基本目標2】こころとからだの健全な育成（体力・運動能力の向上）

【基本目標2】こころとからだの健全な育成（人権教育の充実）

（選定理由）

本市では、多様な人権を尊重し、差別やいじめを許さない子どもの育成を図るために、人権教育カリキュラム等の整備に努めるとともに、子ども人権フォーラムを開催してきた。また、インターネットや各種メディアから得られる様々な情報を正しく見分け、情報を主体的に読み解くメディア・リテラシー養成を通じた人権教育の推進を図っている。

複雑化・多様化していく社会において、子どもたちの自己実現のため、人権意識を高める取組は一層重要となることから、現状の取組について評価し、今後の施策の充実に向けて検討する。

（視察概要）

○本市における人権教育の充実に係る施策の実施状況について

【視察先】四日市市立山手中学校

【視察日時】令和5年12月15日（金）13:30～15:30

【視察内容】山手中学校は、第4次四日市市学校教育ビジョンに基づいて策定した学校づくりビジョンにおいて、学校教育目標を「人間性豊かで、自ら考え、行動できる生徒を育成する」とし、こころとからだの健全な育成に向けた学校教育活動を進めている。とりわけ、人権教育の充実という観点においては、正しい知識を身に付け、想像力、思考力を働かせることで、多様な人権を尊重し、いじめや差別を許さない仲間づくりをめざした取組を実践している。

視察では、2年生の出前授業を参観するとともに、本市における人権教育の充実に係る施策について状況を報告し、その検証を行った。

【評価】

重点評価項目	【基本目標2】こころとからだの健全な育成（人権教育の充実）
評価内容	<p>第4次四日市市学校教育ビジョン 基本目標2において、めざす子どもの姿を「多様な人権を尊重し、差別やいじめを許さない子ども」とした、人権教育の充実に係る取組を推進してきた。また、重点施策の1つである「新教育プログラムの着実な実践」においても、柱5「夢と志！よっかいち・輝く自分づくりプログラム」に「人権を尊重する行動力の育成」、「メディア・リテラシーの養成」を掲げ、発達段階に応じた取組の充実を図ってきた。</p> <p>人権教育の充実について、取組の現状を確認するとともに、その効果や課題の検証を通して、今後の施策展開の方向性や内容の充実に向けた評価を行う。</p>
施策の概要	<p>○子どもが主体となる人権学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディア・リテラシー養成を通じた人権教育の推進

	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども人権フォーラムの実施 ・校内研修会での指導・助言 <p>○教職員人権教育研修の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進人材バンク登録者の活用 ・教職員人権教育研修会の実施 <p>○地域や家庭とともに取り組む人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県教育委員会委託「子ども支援ネットワーク・アクション事業」の活用 ・各種リーフレットの配付
目標値と現状値	<p>「いじめや差別は絶対にいけないと思う子どもの割合」</p> <p>令和5年度 95%（目標値（令和8年度）95%）</p>
施策評価委員の考察と評価	<p>【メディア・リテラシー養成、出前授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業者の話の進め方、生徒たちの興味・関心の惹き方は巧みであった。スライドなどの内容もよく練られたものだった。 ・授業者は「なぜこのような問題はなくなるのか」「なぜ『してはいけない』とわかっているのにやってしまうのか」といった問いかけをし、正義にもいろいろあることに気付かせたいという考えを持っておられた。このように正解がない問いについて考えさせる経験は重要である。 ・著名人が自殺した事件などについて、1つ1つの事例にはそれぞれの経緯がある。正義感から声を挙げている可能性もあれば、誰かを守るために誰かを攻撃している場合もある。その経緯をたどりながら、問題を分析できる機会があるとよい。 ・何は良くて何は避けるべきか、「誹謗中傷」と「批判」はどこが違うのかなど、講義だけで終わらせるのではなく、それを発展・進化・深化させるケーススタディワーク、グループディスカッションなどにつなげられると、より意義のあるものになる。そのためには、2時間連続で行う、後日ディスカッションする機会を設けるなど、時間を増やせることが望ましい。 ・中学生のメディア・リテラシーとして、情報の確かさ・情報源（ソース）は何かを確認することの重要性が大切にされていた。情報の真意を見抜くことが一層困難になってきている昨今の状況を考えると、今回のような人権教育を通じて「メディア・リテラシー」を高めるための地道な取り組みを進めていくことは極めて重要である。 <p>【なかまづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で「クラスで自分を出せているか」という問いがあった。クラスの中には意図をもって自分を「出さない」生徒もいるのではないかと。「本当は自分を出したいが、出せないことに苦しんでいる」生徒がいるのであれば、担任だけでなく、授業を担当する教員やクラスの生徒たちの関係の中で、こうした生徒が安心して過ごせるクラスをどのように作り出せるかが課題となる。 ・周りの雰囲気の中に、こうあるべきという考えがあると、自分が出しにくくなるように感じている。多様な価値観を楽しむことができるという空気を作ることができれば、自分を出しやすくなるのではないかと。

	<p>【教職員研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修について、「認識が変われば行動が変わる」と言われているが、「行動が変われば認識が変わる」のではないとも言われている。今の研修は、詳しい方が来て情報を伝えて終わるというスタイルが多い。知識を伝えて行動を変えるという研修だけでなく、行動した結果、認識が変わるといような研修の仕組みを検討していただきたい。 <p>【地域や家庭とともに取り組む人権教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や教師などの「大人」がフェイクニュースを鵜呑みにする場合もあることから、メディア・リテラシー養成を生徒だけの問題とするのではなく、教師や保護者を含めた大人がこの能力をつける必要性を痛感している。
--	--

【基本目標 2】 ころとからだの健全な育成（体力・運動能力の向上）

（選定理由）

子どもたちが生涯を通じて心身ともに充実した生活を送るためには、自己肯定感や粘り強く最後までやり遂げようとする強い気持ち、他者を思いやり協働する心とともに、生きる基盤となる健康・体力を兼ね備える必要がある。

本市では子どもたちが運動することの楽しさを感じ、主体的に運動に取り組むことができるように「新5分間運動スタートブック」「新5分間運動からはじめる授業づくりガイドブック」を作成し、授業改善を図る取組を行っている。令和4年度体力・運動能力、運動習慣等調査においては、「運動やスポーツをすることが好き」と肯定的に回答した児童生徒は増加したものの、新体力テストの結果は低下傾向にあることから、体力・運動能力向上に係る取組状況を点検し、今後の施策展開の方向性について検討する。

（視察概要）

○本市における体力・運動能力の向上に係る施策の実施状況について

【視 察 先】 四日市市立塩浜中学校

【視察日時】 令和6年1月23日（火）9:30～11:30

【視察内容】 塩浜中学校は、第4次四日市市学校教育ビジョンに基づいて策定した学校づくりビジョンにおいて、学校教育目標を「人間性豊かで、想像力・実践力に富む生徒育成」とし、小規模校ならではのきめ細かな教育の推進を図っている。

視察では、2年生の授業を参観するとともに、本市における「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果を踏まえた現状と施策の取組について報告し、その検証を行った。

【評価】

重点評価項目	【基本目標 2】 ころとからだの健全な育成（体力・運動能力の向上）
評価内容	<p>第4次四日市市学校教育ビジョン 基本目標2において、めざす子どもの姿を「体を動かすことの楽しさを知り、主体的に運動に親しむ子ども」とした、体力・運動能力の向上に係る取組を推進してきた。また、重点施策の1つである「新教育プログラムの着実な実践」においても、柱4「運動大好き！走・跳・投UPプログラム」として、体育授業・運動遊び等で十分な運動量を確保し、体力・運動能力を向上させるとともに、運動機会の拡充により、</p>

	<p>生涯にわたり運動に親しむ能力の育成を図ってきた。</p> <p>体力・運動能力の向上について、本市における子どもたちの現状と施策の取組を確認するとともに、その効果や課題の検証を通して、今後の施策展開の方向性や内容の充実に向けた評価を行う。</p>
施策の概要	<p>○運動好きの子どもを育てるための授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師用指導資料の活用、作成 ・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果の分析を踏まえた授業改善 ・教職員の指導力向上をはかるための実技研修会の実施 <p>○主体的に運動に親しむことができる環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力・運動能力推進校の取り組み
目標値と現状値	<p>「運動（体を動かす運動遊びを含む）やスポーツをすることが好きである」と肯定的に回答をした児童生徒の割合</p> <p>令和5年度 小学校 87.9%（目標値（令和8年度）94%） 中学校 83.4%（目標値（令和8年度）88%）</p>
施策評価委員の考察と評価	<p>【新5分間運動、準備運動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルーティン化されつつも惰性ではなく、音楽に身体と心を合わせて準備運動そのものをエンタメとして楽しんでいるように見受けられた。これだけのバリエーションを時間もかけてこなせば、週に数時間するだけでも体力・筋力の強化・維持に有効であると思われる。準備運動に工夫を凝らして時間をとるのもありだと実感した。 <p>【授業づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動を苦手とする子どもも楽しく取り組めるように工夫された授業だった。 ・活動までに理論的な説明もあった上で、適宜途中で活動を止めながら具体的なイメージでポイントを押さえた指示がなされていた。どんなに運動が苦手な生徒でもその子なりにできるようになるのではないかと思った。 ・仲間の様子を見ると体の使い方の違いもわかりやすく、リアルに感じやすい。経験者であればできて当然とってしまいがちだが、そうでない生徒ができていて自分もできるのではないかと思えて効果的である。 ・準備運動に時間をとられたこともあり、課題に十分な時間をかけることが難しかった。生徒によっては消化不良感が残ったかもしれない。1時間の授業における時間配分と内容のバランスが難しいところであろう。 ・授業者は、授業中のいずれの活動においても、何らかの教育的な意図を持っていた。体力・運動能力の向上は、授業の時間だけで実現することは難しいが、授業をきっかけとしてその実現を目指すことはできる。そのためには、教師からのきめ細やかな声掛けや環境設定が重要である。

【運動好きの子どもを育てる】

- ・「体育の授業は楽しい。でも普段はスポーツをする環境がないのでしていない。」という生徒は、調査に対して肯定的な回答がしにくいのではないかと。授業での楽しさが日常につながればよいと思う。
- ・運動ができると思っている子は、運動が嫌いにはならない。運動ができないことがコンプレックスになると嫌いになるのではないかと。「楽しい」「好き」という気持ちを大切にしたい。

【運動の日常化】

- ・今日の授業を受けて、キャッチボールなどは授業以外の場面で練習できる機会があるとよい。
- ・「授業以外の時間で」というのがポイントになる。他の教科であれば、自分がやりたいと思った時にできるが、体育は場所や人数など、制限がかかってしまう。自分のペースでやりたいときにやるのが難しいため日常化しにくい。

【教職員研修】

- ・中学校と違い、小学校は体育専科が圧倒的に少ない中で取組を進めていくのは大変なことである。

5 継続評価項目と評価

教育を取り巻く状況の急速な変化に伴い、本市においてもその変化に合わせながら施策を展開しています。そのため、教育委員会において継続して進捗を確かめるための点検・評価を行う必要がある項目として、第4次四日市市学校教育ビジョンにおいて様々な施策を横断的に結びつけ中心的な役割を果たす「施策の重点」について評価を行います。

＜施策の重点1＞四日市市新教育プログラムの着実な実践

（柱1）読む・話す・伝えるプログラム

実績・成果 取組状況	<p>(1)「読解力を育む20の観点」のワークシートの作成・配付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R2：小学校高学年対象に配付 ・R4：中学校対象に配付（全教科対応）推進校で問題を作成協力 ・R4：小学校中学年対象に作成 ・R5：小学校中学年、高学年対象に配付 <p>(2)読解力向上推進校（小学校1校、中学校1校） 文章を正確に理解し、適切に表現する資質・能力の育成の研究</p> <p>(3)「スピーチコンテスト THE BENRON」を実施（R5） 市内全体に還流させるため四日市学習ポータルサイト「こにゅうどうくん学びの部屋」で動画公開</p>
評価	<p>○全国学力・学習状況調査：国語（全国100として） 【小】R4：99.0→R5：99.7 【中】R4：100.0→R5：101.7</p> <p>○小学校では、朝の学習、授業中、家庭学習等でワークシートを活用し、読解力の向上につなげることができた。</p> <p>○推進校からは、国語科以外の教科でも「読解力を育む20の観点」を意識した授業改善をすることで読解力や表現力の向上につながったことが報告された。</p> <p>○「スピーチコンテスト THE BENRON」は、参加・見学した中学生が様々なスピーチや助言者の講評を聞くことで、聞き手を納得させる構成や表現を学ぶ場となった。また、当日の発表を「こにゅうどうくん学びの部屋」で動画公開することによって、成果等を市内の全小中学校に広めることができた。</p>

（柱2）論理的な思考で道筋くっきりプログラム

実績・成果 取組状況	<p>(1)教科横断的な思考スキル等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考スキル、思考ツール、表現モデルを活用した授業づくり ・「論理的思考力向上のための手引き」の作成、配付 <p>(2)論理的思考力向上推進校（小学校1校、中学校1校） 論理的思考力向上を目指した実践的・効果的な授業づくり等の研究</p> <p>(3)オンライン学習支援教材「学んでE-net!」に、本市独自で記述問題ワークシートを掲載</p> <p>(4)プログラミング教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校で発達段階に応じたプログラミング教育を実施 ・プログラミング教育を実施するための研修会を実施
評価	<p>○全国学力・学習状況調査：算数・数学（全国100として） 【小】R4：99.7→R5：97.6 【中】R4：101.2→R5：104.0</p> <p>○論理的思考力指導資料（リーフレット）を発行したり、思考スキル活用に係る研修動画を公開したり、「学んでE-net!」で記述問題ワークシートを掲載したりして、論理的思考力の育成</p>

	<p>につなげた。</p> <p>○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」という質問に、肯定的回答をした割合が全国比較で小学校が0.5ポイント、中学校が5.7ポイント上回っている。</p> <p>○Scratch（命令ブロックを組み合わせてプログラムを作成できるタブレット端末上のアプリ）を用いて、児童一人一人が正多角形を描写するプログラム（小学校5年生算数科）や、光センサーが明るさを感じて電球がつく・消えるプログラム（小学校6年生理科）を作成する体験を通じて、論理的思考力の育成につなげた。</p>
--	--

（柱3）英語でコミュニケーション IN 四日市！プログラム

取組状況 実績・成果	<p>(1)小学校英語専科教員の配置</p> <p>(2)全小中学校へネイティブの英語指導員の配置 英語キャンプ、パフォーマンステスト、イングリッシュ LAB 等を実施</p> <p>(3)英検 IBA を中学校全学年で実施</p> <p>(4)小中学校連携した英語学習をとおして「故郷よっかいち」を英語で紹介できる力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あすなろう鉄道・三岐鉄道英語アナウンス ・四日市・ロングビーチ交流プログラム
評価	<p>○「英語を使って友達と会話することは楽しい」と肯定的な回答をした児童の割合 小学校5・6年生 R5 81%</p> <p>○第3期教育振興計画では「中学校卒業段階で英検3級等以上 50%以上」を目指している。 令和5年度の英検 IBA（3級以上レベル）の本市生徒の割合（中学校3年生）は、51.3%と昨年度より0.6%上昇した。</p> <p>○英検 IBA の中学校1年生のリスニングの正答率が他分野と比べて高い。英語専科教員配置等により小学校で聞く・話すを中心とした言語活動を経験していることが成果の要因と考えられる。</p>

（柱4）運動大好き！走・跳・投 UP プログラム

取組状況 実績・成果	<p>(1)四日市市運動能力・体力向上推進委員会で検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力・運動能力の現状、課題把握 ※全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果分析冊子発行 ※保護者向けリーフレット発行 ・体力向上、授業改善に係る取組の検討・発信 等 R2:【小】「新5分間運動スタートブック」等作成 R3:【中】「Warmup+新5分間運動スタートブック」等作成 R4:【小】「新5分間運動からはじめる授業づくりガイドブック」作成 R5:【小】「新5分間運動からはじめる授業づくりガイドブック2」作成 <p>(2)小学校体育担当者研修会を年3回実施</p>
評価	<p>○小中学校ともに新5分間運動が定着してきた。</p> <p>○児童生徒の体力は、校種別男女別に全国平均値と同等であったり、やや上回ったりするなど、一定の成果が表れている。</p> <p>○「運動やスポーツをすることが好き」と肯定的回答をした児童生徒の割合は、小学校では増加したが、中学校では減少した。</p> <p>【小】R4 87.4%→R5 87.9% 【中】R4 84.2%→R5 83.4%</p> <p>○担当者研修会等を実施したことで、運動特性に触れ、達成感や成就感が感じられる授業づくりを進めることができた。また、休み時間等の全校遊びの設定、運動に興味を持つ掲示物の工夫など、日常的に運動したくなるような工夫を推進することができた。</p>

(柱5) 夢と志！よっかいち・輝く自分づくりプログラム

実績・成果 取組状況	<p>(1)四日市版キャリア・パスポートの作成・配付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R2：小学校6年生、中学生に配付 ・R3：全小中学生に配付（R4以降、毎年小学校1年生・中学校1年生に配付） <p>(2)キャリア・パスポート推進校（小学校1校、中学校1校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・パスポートの効果的な活用に係る実践研究・検証 ・推進校の取組リーフレットを作成・配付 <p>(3)プレ社会人セミナー・職場体験の実施（中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーによる出前授業 ・職業に関わる様々な事業所等での職場体験活動（原則3日間実施） <p>(4)各中学校区において子ども人権フォーラムを実施</p> <p>(5)全小中学校において、メディア・リテラシーと人権についての出前授業を実施</p>
評価	<p>○「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童生徒の割合</p> <p>【小】R4 77.3% → R5 80.1% 【中】R4 70.5% → R5 70.9%</p> <p>○キャリア・パスポートを学年・学校間で引き継ぐことにより、子どもの育ちと学びのつながりを意識した指導ができるようになった。</p> <p>○推進校においては、児童生徒のキャリア発達を促すため、4つの基礎的・汎用的能力を児童生徒自身が意識して取り組むことができる学習活動、地域と連携した学習活動、地域課題について地域の方々とともに考える学習活動等、発達段階に応じたキャリア教育に取り組んだ。</p> <p>○令和5年度キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学表彰受賞7校目</p> <p>○子ども人権フォーラムや出前授業を通して、児童生徒が身近な人権問題を話し合い、自他の人権を尊重する実践行動力の育成につなげることができた。</p>

(柱6) 四日市ならではの地域資源活用プログラム

実績・成果 取組状況	<p>(1)四日市公害と環境未来館の見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校5年生、中学校3年生と中学校2年生（大規模校）で実施 <p>(2)市内教職員対象にESD・SDGsの研修会を実施</p> <p>(3)小学校社会科副読本「のびゆく四日市」のデジタル教材を作成</p> <p>四日市学習ポータルサイト「こにゅうどうくん学びの部屋」にデジタル教材を掲載</p> <p>(4)企業連携授業やJAXAと宇宙に関する教育活動を実施</p>
評価	<p>○「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と肯定的な回答をした児童生徒の割合</p> <p>【小】R4 50.7%→R5 79.1% 【中】R4 43.4%→R5 70.2%</p> <p>○公害の事実、市民や企業、行政の取組や当時の人々の思いを知り、ふるさと四日市を大切に思い、自分たちにできることを考えることができた。</p> <p>○ESD・SDGsの研修会に参加した教員は、SDGsを学ぶ意義や目的を体感することができた。</p> <p>○四日市公害と環境未来館の見学や「のびゆく四日市」のデジタル教材の活用などによって、多くの児童生徒が四日市のよさや魅力について感じたり、理解を深めたりすることにつながった。</p> <p>○企業連携授業を実施することで、教師も児童生徒も学習内容と実社会とのつながりを実感することができた。また、JAXAの研修会に参加した教師は、宇宙航空を素材とした授業づくりについて学びを深めた。</p>

＜施策の重点2＞ICTの効果的な活用（四日市市GIGAスクール構想）

【環境整備】

実績・成果 取組状況	<p>(1)学習用アプリの導入</p> <p>(2)学習用タブレット端末で個別学習アプリ（ベネッセ社ドリルパーク、日本コスモトピア社みんなの学習クラブ）を導入し、朝の学習や家庭学習等で活用</p> <p>(3)学校保護者連絡システム導入</p> <p>(4)校務支援システム（EDUCOM社C4th）と連携した学校保護者連絡システム（EDUCOM社Home&School）を使用した学校と保護者の双方向連絡システムの導入による連絡手段のデジタル化</p> <p>(5)ネットワークの増強</p> <p>(6)各学校からインターネットへの接続回線を令和4年度に10Gbpsに増強し、クラウドの利用やオンライン教材へのアクセスを高速化</p> <p>(7)教員用タブレット端末の配備</p> <p>(8)小中学校の授業等における事前準備や教材研究の効率化</p>
評価	<p>○個別学習アプリの浸透により、朝・帰りの帯時間や家庭学習などでの取組がさらに充実した。</p> <p>○学校保護者連絡システムの利用が増えたことにより、学校だよりや重要連絡などが保護者に確実に届く機会が増加した。また、学校からの情報伝達や発信のデジタル化により印刷物が減少した。</p> <p>○インターネット接続回線の高速化により、複数学級が同時にクラウドやインターネット上の教材等にアクセスしても、フリーズしたり画面表示が極端に遅くなったりすることが少なくなったが、今後データ量の増加が見込まれるため、ネットワーク全体の安定性を確保し、通信速度の向上を図り、学習活動がスムーズに行えるような環境整備を進める。</p> <p>○一人一台の教員用タブレット端末が定着し、教材研究や準備についてより効率的に行えるようになった。</p>

【教職員研修】

実績・成果 取組状況	<p>(1)校長経験者と指導主事等による指導・助言 ICT機器の活用や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりに関する指導・助言 (R4：全小学校各2回訪問、R5：全小中学校2回訪問)</p> <p>(2)出前研修等 ICT機器を活用した授業づくりに係る各校での研修講座（年11回実施）</p> <p>(3)ICT活用実践推進校公開授業の実施 (令和4年度実践推進校：橋北中学校、西朝明中学校、大矢知興譲小学校、水沢小学校、河原田小学校) いずれかの推進校における公開授業に、各小中学校から最低1名参加 (令和5年度実践推進校：橋北中学校、西朝明中学校) いずれかの推進校における公開授業に、各中学校から最低1名参加</p>
評価	<p>○みえ県民カビジョン及び三重県教育ビジョンの目標指標等の進捗状況に関する調査による、児童生徒の端末の活用状況で「ほぼ毎日、利活用している」と回答した学校の割合が向上した。R4 81.3% ⇒ R5 93.2%</p> <p>○ICT推進担当教員等が、ICT活用実践推進校公開授業に参加し、学習者用タブレット端末を活用した児童生徒の意見や考えの交流・発表用資料の作成方法、そのためのアプリの使用方法など、効果的な授業づくりについて、先進的な実践から学ぶ機会となった。</p>

<施策の重点3>学校の組織力向上（四日市市の公立学校における働き方改革 ver. 2）

【環境整備（制度設計など）】

実績・成果 取組状況	<p>(1)学校保護者連絡統合システム（R4～） 学校と家庭の両者の負担軽減のため、学校だよりや欠席連絡など、学校と家庭間の連絡手段をデジタル化</p> <p>(2)教員用一人一台タブレット端末（R4～） 授業で使用するタブレット端末による事前準備や教材研究の効率化</p> <p>(3)給食費公会計化（小学校：R4～ 中学校：R5～） 給食費徴収に係る教職員の業務負担軽減</p> <p>(4)高性能コピー機の導入（R3～全校設置） 印刷業務に係る時間短縮</p> <p>(5)オートメッセージ付き電話（R1.8～） 教職員の勤務時間外における電話対応の負担軽減</p> <p>(6)校務支援システムの導入（H31～） 出席簿、成績処理、指導要録作成等のデジタル化と児童生徒情報の一元管理</p> <p>(7)週2日の部活動休養日の設定（中学校のみ）（H30～） 生徒及び教職員の健康面を配慮し、部活動ガイドラインにおいて休養日を設定</p> <p>(8)学校閉校日（夏/冬）の設定 長期休業中における学校の対応軽減を目的とした閉校日の設定</p> <p>(9)高学年一部教科担任制（R2～） 小学校高学年における教科担任制に対応するための実践的研究を実施</p> <p>(10)定時退校日の設定</p> <p>(11)学校外の会議や研修のオンライン化</p> <p>(12)学校行事の見直し</p>
評価	<p>○超過勤務年720時間以上の教職員の割合 【小】R1 10.8%→R5 2.6% 【中】R1 33.3%→R5 19.2%</p> <p>○ICTを活用した保護者との情報共有・連絡調整や校務効率化により、教職員や保護者の負担軽減につながっている。一方、時間外勤務時間が多い職員は減少しているものの、一定数存在している。令和6年度より校務支援システムによる児童生徒情報の一元管理や、自動採点システムの導入など、より効果的・効率的な学校業務体制の構築を目指す。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策下において、教育活動は多大な制限を強いられ、各学校では教育的観点を踏まえつつ、学校行事等の精選や見直しが行われた。コロナが第5類感染症に位置付けられ、コロナによる教育活動の制限は解消されたが、今後も児童生徒や地域の実態に応じて、各学校でさまざまな教育活動の精選や見直しを進める必要がある。</p>

【環境整備（人材の活用）】

実績・成果 取組状況	<p>(1)学校業務アシスタント（市）の配置（R1より継続して全校配置）</p> <p>(2)スクール・サポート・スタッフ（県）の配置（R2.9より継続して全校配置） データ入力や印刷業務、書類整理、環境整備など、学校や教員が必ずしも担う必要のない業務を行う。</p>
評価	<p>○「業務負担軽減に効果があった」と回答した教職員の割合 96%</p> <p>○これらの人材活用については、年々、学校運営の中に位置づいてきており、印刷や調査・統計の回答等、学校の業務だが必ずしも教師が担う必要のない業務を任せることで、教職員の業務負担軽減に大きな効果をもたらしている。</p>

【部活動地域移行】

<p>実績・成果 取組状況</p>	<p>(1)部活動指導員/協力員の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休日部活動を持続可能な活動とするための地域人材を中心とした人材確保 ・令和5年度 25名を指導員として市立中学校に配置 <p>(2)総合型地域スポーツクラブとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休日部活動について、総合型地域スポーツクラブが担えるよう体制を整備 ・令和5年度 3クラブ⇒3中学校と連携 「楠スポーツクラブ」⇒楠中学校（7活動で連携） 「さんさん」⇒三重平中学校（3活動で連携） 「うつべ☆スター」⇒内部中学校（3活動で連携） <p>(3)拠点型活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各競技団体・文化活動団体と連携し、拠点型の活動を行うことができるよう体制整備のための調査・研究を実施 ・令和5年度 3種目の団体による活動を実施 「四日市剣道協会」⇒剣道 「三重県軟式野球連盟四日市支部」⇒軟式野球 「四日市吹奏楽団」⇒吹奏楽
<p>評価</p>	<p>○部活動指導員については、市内中学校の25部活に指導員を任用し、土日の休日を中心に専門的な技術指導を行った。指導員単独での指導が可能であるため、当該部活動顧問の働き方改革につながった。</p> <p>○総合型地域スポーツクラブと各中学校の連携については、休日の練習を中心に各スポーツクラブの指導員が指導を行った。連携するクラブが増えたことで、複数校において部活動指導に対する教職員の負担軽減につなげるができた。</p> <p>○拠点型活動については、3団体がそれぞれ月に一回程度の練習会や稽古会を実施することで、中学生の休日活動の保障に向けて、協会等による活動実施の道筋をつけることができた。</p> <p>○地域指導者による部活動指導により、教員の部活動指導に関する業務負担の軽減は一定の成果がみられるものの、既存の学校部活動の種目すべてにおいて地域指導者が指導を実施できるだけの環境は整っていないため、関係者や団体への実態調査・意識調査を実施、その結果もふまえ、市の関係部局や各種協会・団体と共に環境整備に取り組む。</p>

継続評価項目に係る視察の概要及び評価は以下のとおりです。

(視察概要)

○ICTの効果的な活用について（四日市市 GIGA スクール構想）

【視察先】 四日市市立浜田小学校

【視察日時】 令和6年5月1日（水） 9:20～11:30

【視察内容】 浜田小学校は、第4次四日市市学校教育ビジョンの重点施策の1つである ICT の効果的な活用（四日市市 GIGA スクール構想）に基づき、当該校の学校づくりビジョンにおいて「学校教育力の向上」として授業改善研修の推進を位置づけ、学校教育活動を進めている。とりわけ、ICTの活用という観点においては、「『GIGA スクール構想』に呼応した授業観のアップデート」を掲げ、日々の実践を積み重ねている。

視察では、2～4年生、6年生の授業を参観するとともに、ICTの効果的な活用について、本市における四日市市 GIGA スクール構想に基づく施策について状況を報告し、その検証を行った。

【評価】

継続評価項目	ICT の効果的な活用について（四日市市 GIGA スクール構想）
評価内容	<p>第4次四日市市学校教育ビジョン重点施策の1つである「ICT の効果的な活用（四日市市 GIGA スクール構想）」に伴う授業改善を通じた学力向上に係る取組、ICT 環境整備など、「情報活用能力」を基盤として、生涯にわたって自ら学び続け、他者と協働して未知の課題を解決できる基本的な資質・能力の育成を図ってきた。</p> <p>「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指した取組について、現状を確認するとともに、その効果や課題の検証を通して、今後の施策展開の方向性や内容の充実に向けた評価を行う。</p>
施策の概要	<p>○ICT 活用による授業改善を通じた学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 活用推進校の指定とその実践の水平展開 ・ ICT コーディネーター、情報化推進リーダーの育成 ・ 校内研修会等における指導・助言 ・ GIGA スクールアドバイザーや指導主事による各校への訪問・支援 <p>○ICT 環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習 e ポータル・学習者用アプリ等の導入 ・ 学校保護者連絡システムの導入 ・ 通信ネットワークの安定化 ・ 授業用端末の配備
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">施策評価委員の考察と評価</p>	<p>【授業改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ GIGA スクール構想とそれに関連する教育政策を通じて、学校の教室における授業の風景は、一昔前と比べて様変わりしたことを改めて実感した。この数年間で、学校の先生方の授業観は大きく変容を迫られたに違いない。これからの学校の教室では、従来のチョーク & トークの授業法に固執して、自身の授業スタイルを変革しない教師は通用しないのではないだろうか。 ・ 「令和の日本型学校教育」答申では、教師は子どもたちの「学びの支援者・伴走者」としての役割を期待されている。ICT の活用は、自律的・主体的な学習者を育成するための重要なツールになること、そのためには教師の教授法を学ぶこと、認識を変化させること、同僚と学びあうこと、指導主事・外部講師から学ぶこと、これらを総合的に取り組んでいくことが欠かせないだろう。 ・ 想像以上に ICT の活用（アプリ、ネット）が授業で工夫して行われていた。授業で活用することで、社会人になって必要となる活用スキルを子どものうちから養成できる。 <p>【学力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT の活用スキルが高い子どもと苦手な子どもを比べたとき、学力の格差はタブレットをたくさん活用することで解消されるのか、縮小されるのか、むしろ広がってしまうのか。その分析は必要ではないか。 ・ 自分の考えをアウトプットすることについては、タブレットを使うことで、分かりやすく見せることに意識が向きやすく、スキルも身に付く。しかし、相手と議論をする場合はその内容をメモするべきで、紙の方が簡易的であると思う。必ずしも紙でなければならないわけではないが、思考過程をどう残すのかは工夫する必要がある。 <p>【ICT と紙のハイブリット、「学びの文房具」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タブレットの使用は重要であるが、ICT 機器よりも紙のほうが有効な場面があるのではないか。紙は集中力の涵養やより深い学びに適しており、タブレットは簡単な情報検索や文章や図表作成などに適していると思われる。

- ・タブレットの活用は、紙ではできないこと、タブレットやネット環境でしかできないことに活用することでメリットがある。図を回したり、動かしたりするなど、流動性のあることをさせることが、タブレットだからこその強みである。
 - ・どうしたらもっとわかりやすくなるかなど、試行する活動は、描いたり消したりすることが容易なタブレットの方が、紙よりも優位性が高そうに感じた。
 - ・使用するツールが違って、工夫をすればいろいろできる。紙の時にはできなかったことも、いろいろな使い方ややり方を身に付けていくことで、それぞれのやり方が生み出されていく。
 - ・ICT活用の最大のメリットは、リアルタイムでの情報共有である。手書きのノートでも、写真を撮れば共有でき、コメントをしあうことが可能となる。また、ノートのとり方など、工夫した点を共有するとそれを参考に取組むことが可能になる。
 - ・過去の課題や資料は、紙だと探すことが困難だが、データであれば簡単に参照できる。
- 【ICT環境整備】**
- ・タブレットを使って互いの情報を共有するには、共有のデバイスやシステムなどの環境がきちんと構築されていなければならない。この点については、整備が進められていると感じた。
 - ・現時点の日本社会では、むしろ小学校・中学校が最もICT化が進んでおり、そこでせっかく様々なツールの使い方を身に付けても、高校・大学・企業などではそのツールを使っていないため、活用できなくなってしまうのではないかと。小中学校特有のツールが進みすぎると、いわゆる蛸壺化が起ってしまうのではないかと懸念される。
- 【教師の授業準備、働き方改革】**
- ・タブレットを活用した授業を行うようになって、授業の準備の仕方は変わったと思う。時間的にも楽になってくるのではないかと。

6 基本目標の達成状況

基本目標1 確かな学力の定着

子どもたちがこれからの複雑で変化の激しい時代を生き抜くためには、知識や技能の定着とともに、思考力、判断力、表現力をバランスよく育成することや言語能力、問題解決能力、情報活用能力など汎用的な資質・能力を育成する必要があります。

いかに社会が変化しようとも、自ら課題を見つけ、考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決できるよう、ICTを効果的に活用しながら、個に応じた指導や対話的な学びをこれまで以上に進め、確かな学力の定着を図ります。

【指標】（基本目標 1-1、1-3、1-4…全国平均値を 100 としたときの全科目の市平均値）

①「全国学力・学習状況調査」における各教科の平均正答率の平均値	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
	小学校 98.8 中学校 102.5	小学校 100.8 中学校 100.5	小学校 98.7 中学校 102.9				小学校 102 中学校 103
自己評価	令和4年度と比較し、小学校は 2.1 減少し、中学校は 2.4 増加した。小学校では「自分の考えが伝わるように書き表すこと」に課題がみられた。また、小中学校とも「根拠や関係性をもとに説明すること」においては成果が見られた。						

②ほぼ毎日、コンピュータなどの ICT 機器を他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している児童生徒の割合	基準値 R1	R4※1	R5※2	R6	R7	R8	目標値
	5.7% (参考値)	調べる場面 13.1% 意見交換場面 6.5%	—				95%
自己評価	三重県教育ビジョン調査において、「すべての教員が端末を授業で活用する」学校の割合が令和4年度の 62.7%から 71.2%と 8.5%増加した。また、「ほぼ毎日端末を利活用する」学校の割合も令和4年度の 83.1%から 93.2%と 10.1%増加した。これは、教職員研修講座の開催や校長への学校訪問支援等が要因だと考えられる。						

※1 令和4年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙において、設問の内容が調べる場面と意見を交換する場面にわかれたため、別々の数値を達成状況とした。

※2 令和5年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙において、設問が削除されたため数値なし。

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
③「全国学力・学習状況調査」における読解力に関連する問題の平均値	小学校 100.7 中学校 101.1	小学校 98.6 中学校 100.1	小学校 98.9 中学校 104.5				小学校 102 中学校 103
自己評価	令和4年度と比較し、小学校は 0.3、中学校は 4.4 増加している。読解力向上 20 の観点や、学びの一体化の系統的な指導、要請訪問等による指導助言など、今までの継続的な取組の成果であると考えられる。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
④「全国学力・学習状況調査」における思考力に関連する問題の平均値	小学校 95.3 中学校 104.3	小学校 99.0 中学校 103.6	小学校 85.7 中学校 108.6				小学校 101 中学校 105
自己評価	令和4年度と比較し、小学校は13.3減少し、中学校は5.0増加している。数学的な特徴を捉え、判断し、その理由を述べる問題において、小学校で課題がみられた。特に小学校においては、日々の指導が基礎的・基本的な知識及び技能に重きをおいていること、丁寧な指導が児童の考える力の育成につながっていないことが原因の一つだと考える。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑤-1「英語を使って友だちと会話することは楽しい」と肯定的な回答をした小学5・6年生の割合	82%	84%	81%				90%
自己評価	令和4年度から3%減少しているものの一定の数値（80%以上）は保っている。若手教員が増加している中、英語専科教員による授業、HEF とのT・T、つきたい力に合わせた多様なコミュニケーション活動を設定など、これまで行ってきた授業改善等を継続し、授業の質を担保していく取組の成果であると考え。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑤-2 CEFR A1 レベル（英検3級）相当以上を取得している及び相当の英語力を有すると思われる中学3年生の割合	44.3%	47.0%	58.6%				55%
自己評価	令和4年度から、11.6%増加している。学習到達目標「CAN-DO リスト」を活用した授業を行い、生徒の英語力を向上させていく多様なコミュニケーション活動を設定するなど、授業改善等を進めた結果であると考え。また、英検 IBA の結果を中心に生徒の学習状況を把握し、授業を行い、生徒の英語力向上につなげたことも要因であると考え。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑥「主体的な遊びを通しての学び」について研修を行い、教育課程に反映させた園の割合	—	69%	95%				100%
自己評価	令和4年度から26%増加した。令和5年度に幼児教育センターが開設し、幼児教育スーパーバイザー（三重大学等と連携して派遣される専門家）や幼児教育アドバイザーによる園訪問の回数が増えたことにより、各園が研修を進めたことが結果につながった。						

基本目標2

こころとからだの健全な育成

子どもたちが生涯を通じて心身ともに充実した生活を送るためには、自己肯定感や粘り強く最後までやり遂げようとする強い気持ち、他者を思いやり協働する心とともに、生きる基盤となる健康・体力を兼ね備える必要があります。

集团的・協働的な学びの中で、人権意識の向上と行動力の育成、考え議論する道徳教育を通して、よりよく生きるための豊かな人間性を育みます。また、生涯にわたり運動好きの子どもを育てるとともに、基本的な生活習慣と規範意識の修得を図ります。

【指標】

	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
①いじめや差別は絶対にいけないと思う子どもの割合	93%	94%	95%				95%
自己評価	令和4年度から1%増加し、目標値に届いた。令和3年度から市内全小中学校で進めている「メディア・リテラシー養成を通じた人権教育」にかかる出前授業等により、自他の人権を大切にすることをくり返し伝えてきた効果が表れてきていると考えられる。						

	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
②「道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校 79.8% 中学校 81.3%	小学校 77.4% 中学校 89.1%	小学校 82.1% 中学校 90.5%				小学校 85% 中学校 86%
自己評価	令和4年度と比較し、小中学校ともに肯定的な回答の割合が増加している。児童生徒が道徳の授業において、自分の考えを深めたり、考えを交流したりする機会が保障されていることが背景にあると考えられる。各校における「考え、議論する道徳」の充実に向け、道徳教育推進校の取組を、全小中学校の道徳教育推進教員に研修会で周知したことも授業改善を推進した要因と考えられる。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
③「授業時間以外に読書をする」と回答した児童生徒の割合	小学校 81.8% 中学校 66.8%	小学校 70.2% 中学校 63.3%	小学校 74.2% 中学校 65.7%				小学校 85% 中学校 70%
自己評価	令和4年度と比較し、「授業時間以外に読書をする」と回答した児童生徒の割合が、小学校では4.0%、中学校では2.4%増加している。感染症拡大防止のため制限されていた貸出機会等の制限がなくなるとともに、学校図書館等における読書活動の充実や司書等と連携して、子どもたちがより多くの本と出会う場を設定したことが増加の要因と考えられる。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
④「運動（体を動かす運動遊びを含む）やスポーツをすることが好きである」と肯定的な回答をした児童生徒の割合※	(小)男子 71.3% (小)女子 52.0% (中)男子 63.5% (中)女子 44.3%	小学校 87.4% 中学校 84.2%	小学校 87.9% 中学校 83.4%				小学校 94% 中学校 88%
自己評価	令和4年度と比較し、肯定的な回答をした児童生徒は小学校では増加した。中学校では減少したが、基準値からは改善されており、新5分間運動の取組や体力・運動能力テストの分析を踏まえた授業改善の結果だと考える。						

※ 令和4年度以降は「好き」「やや好き」と肯定的な回答をした児童生徒の割合の男女平均値。

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑤学校三師や関係機関と連携し、専門的な知見を活かした学校保健委員会や保健教育、研修会等を2回以上開催した学校数	8校 (小2 中6) 13.6%	59校 (小37 中22) 100%	59校 (小37 中22) 100%				30校 (小19 中11) 50.8%
自己評価	全小中学校において指標内容を実施することができた。学校三師や専門性を持つ外部講師等を活かした指導を行うことにより、具体的かつ実情に即した学びを得られる機会となった。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑥食育に「関心がある」と回答した児童生徒の割合	—	小学校 81.1% 中学校 66.7%	小学校 82.8% 中学校 68.6%				100%
自己評価	令和4年度と比較し、小中学校ともに増加した。給食時間を利用し、栄養教諭等が食に関する指導を効果的に行ったことで、食に関心を持つ子どもが増えたと考えられる。						

基本目標3

よりよい未来社会を創造する力の育成

子どもたちが夢や志を持ち、その実現に向けて行動に移していくためには、主体的に自ら学ぶ意欲と、他者との人間関係を形成するためのコミュニケーション能力を育成する必要があります。

地域に愛着と誇りを持ち、持続可能で暮らしやすい未来社会を担う自立した人間に成長できるよう、四日市ならではの地域資源を効果的に生かし、日々の学校生活全体をキャリア教育の視点で捉えながら、社会のつながりを意識した教育活動を進めます。

【指標】

	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
①「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校 82.0% 中学校 70.0%	小学校 77.3% 中学校 70.5%	小学校 80.1% 中学校 70.9%				小学校 85% 中学校 75%
自己評価	令和4年度と比較し、小中学校ともに、肯定的な回答をした児童生徒の割合が増加している。児童生徒の交流を伴う取組の中で4つの基礎的・汎用的能力について体験を通して学ぶ機会が回復してきたことや、地域、企業等と連携した取組、多様なゲストティーチャーを招いた授業や丁寧な進路指導に継続して取り組めたことが一要因であると考え。						

	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
②-1 見学をとおして、ふるさとへの愛着をもつことができた児童生徒の割合	小学校 85% 中学校 80%	100%*	100%				小学校 95% 中学校 90%
自己評価	学芸員やボランティアガイドによる分かりやすい説明を交えた現地での学習効果を多くの児童生徒、教員に感じてもらい、四日市のよさや魅力に触れさせることができている。						

※ 見学をとおして、地域の歴史について興味や関心を深めたり理解を深めたりすることができたと回答した学校。

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
②-2 見学をとおして、星や宇宙に対して興味・関心を示すことができた児童生徒の割合	小学校 85% 中学校 80%	—*1	100%*2				小学校 95% 中学校 90%
自己評価	各学校の学習進度や先生からの要望に沿った学習投影を行ったことが高評価の要因であると考え。						

※1 施設工事による休館等、利用の制限があったため、R4については数値なし。

※2 学習投影を見た市内小中学校に対するアンケートのうち、星を含めた天体に関して興味・関心をもてたと回答した学校の割合。

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
③-1 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校 55.7% 中学校 42%	小学校 50.7% 中学校 43.4%	小学校 79.1% 中学校 70.2%				小学校 60% 中学校 70%
自己評価	肯定的な回答をした児童生徒の割合は、令和4年度から小学校は 28.4%、中学校は 26.8%増加している。子どもたちが地域行事に主体的に参画するなど、地域と関わる機会が十分に設けることができたことが要因として考えられる。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
③-2 「地球環境を守るための行動をしたいと感じるようになった」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校 85% 中学校 80%	—※1	小学校 89.1%※2 中学校 90.9%※2				小学校 95% 中学校 90%
自己評価	基準値から小学校は 4.1%、中学校は 10.9%増加している。ESD カレンダールに基づいた教育の推進によって、子どもたちの地域課題に対して主体的に考えようとする意識の向上につながっていると考える。						

※1 施設工事による休館等、利用の制限があったため、R4については数値なし。

※2 三重県教育ビジョン調査の質問項目のうち、環境教育・環境保全活動推進に向けた取組等を元にして指標に対する結果を数値化した。

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
④「学校教育活動、学校経営の評価」における、「日常生活に生きる安全教育の充実」の質問項目での評価の平均値	小学校 3.5 中学校 3.1	小学校 3.4 中学校 3.3	小学校 3.5 中学校 3.3				小学校 3.8 中学校 3.5
自己評価	各校においては学校安全計画や防災教育計画に基づき、安全や防災への知識や実践力を高める指導が定着してきているが、小中学校ともに数値が横ばいである。今後は、地域や関係機関と連携した訓練や安全教室の取り組み、安全点検の実施を推進していく。						

基本目標4

全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現

少子高齢化に伴う地域社会の変容、人間関係の希薄化、家庭環境の多様化など、コロナ禍も相まって、子どもを取り巻く環境の変化に拍車がかかっています。

学校教育が「ひとつくり」の場であればこそ、誰一人取り残すことのない学びの保障に向けて、子ども一人一人が、それぞれのニーズに応じた学習の機会を得られるよう、全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現を目指します。

【指標】

	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
①-1「国語の授業の内容はよく分かる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校 82.0% 中学校 70.0%	小学校 84.9% 中学校 83.8%	小学校 86.0% 中学校 85.3%				小学校 90% 中学校 88%
①-2「算数・数学の授業の内容はよく分かる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校 84.6% 中学校 80.7%	小学校 79.7% 中学校 79.5%	小学校 82.9% 中学校 82.7%				小学校 90% 中学校 85%
自己評価	令和4年度と比較し、国語においては、小学校は1.1%、中学校は1.5%増加した。算数・数学においては、小学校は3.2%、中学校は3.2%増加した。ICTを活用した児童生徒が主体的に学習をすすめる授業の工夫が進んでいる結果だと考える。						

指標	基準値 R2	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
②相談支援ファイルを作成している児童生徒の割合	7.7%	8.9%	9.0%				8.3%
自己評価	特別支援教育 Co（コーディネーター）担当者研修会で相談支援ファイルの活用方法について周知したり、学校に訪問して研修会で直接アドバイスしたりすることにより理解が進み、適切な相談支援ファイルの作成につながった。						

※ 学習指導要領において、特別支援学級在籍児童生徒及び通級による指導を受ける児童生徒は相談支援ファイル（個別の教育支援計画・個別の指導計画）を作成することになっている。

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
③JSL対話型アセスメントDLA（四日市版）を活用して日本語指導等を行った学校の割合	—	23.9%	55.6%				100%
自己評価	外国人児童生徒が在籍している小中学校において、令和4年度から31.7%増加した。JSL 四日市版を作成し、担当者研修会等で活用を促したことで、外国人児童生徒の日本語能力を把握し、個別の指導・支援の計画を立てるといった校内体制づくりにつながった。						

指標	基準値 R2	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
④中学3年生不登校生徒の卒業後進路（進学・就職）決定率	96%	91%	93%				100%
自己評価	進路決定に結び付かなかったケースは、当該生徒自身やその家庭の状況など、中学卒業のタイミングでの進路決定が困難な状況にある児童生徒が多かった。今後も引き続き、中学校在学中の早期から計画的に進路指導を行ったり、関係機関につなげたりする体制づくりを促進し、不登校生徒の社会的自立につなげる取組を進めていく。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
④学校基本調査における中学校卒業後の高等学校等進学率	98.9%	98.8%	98.8%				99.5%
自己評価	進学を希望する生徒に受けられる制度や支援についての適切な情報を周知するとともに、学校が個々の生徒に応じた進路指導ができるよう指導助言を行っていく。						

基本目標5

学校教育力の向上

子どもたちが安全・安心な学校生活を送り、意欲的な学びを継続することのできる教育環境をつくるためには、組織的かつ計画的な教育活動に取り組むなど、よりよい学校教育をめざすカリキュラム・マネジメントを踏まえた学校運営を進めることが重要です。

学校と家庭・地域・関係機関・専門家が連携し、「チーム学校」としての組織力を強化することで、学校教育力の向上を図ります。

【指標】

①「学校評価」における「学校経営の充実」に係る質問項目の平均値	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
	小学校 3.3 中学校 3.2	小学校 3.3 中学校 3.2	小学校 3.3 中学校 3.3				
自己評価	令和4年度と比較し、学校経営の充実に係る質問項目の平均値は、中学校が増加した。学習者の理解と対応や危機管理、学校情報の発信等が充実するとともに、ICT機器の整備により職員間において児童生徒情報の共有がスムーズになるなど、学校経営の充実に努めることができたことが要因だと考える。						

②超過勤務年720時間以上の教職員数の割合	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
	小学校 10.8% 中学校 33.3%	小学校 3.3% 中学校 15.2%	小学校 2.6% 中学校 19.2%				
自己評価	小学校においては、年々目標値に近づいていることから、平成30年度以降、「学校業務サポート事業」として学校業務の適正化に関する取組を進めてきた成果が表れていると考えられる。中学校においては、平日の部活動の在り方や段階的な地域移行については更なる検討、取組を進める必要がある。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
③「学校に行くのは、楽しいと思う」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小6 85.0% 中3 84.0%	小6 84.1% 中3 85.3%	小6 85.0% 中3 86.1%				小6 90% 中3 90%
自己評価	令和4年度と比較し、小学校は0.9%増加し、中学校は0.8%増加した。しかし、全国平均値と比較すると、小学校は0.3%下回っていることから、今後も、学校生活において安心感が得られるよう、子どもたちが相談しやすい環境作りを進めていく必要がある。						

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
④新教育プログラム 6つの柱を意識した 一貫性・連続性のある 指導をした中学校 区数	—	21 校区	21 校区				21 校区※
自己評価	すべての中学校区において、新教育プログラムを意識した取組を進めることができた。今後も、新教育プログラム、四日市市就学前教育・保育カリキュラムを踏まえ、発達段階に応じた取組を充実させるとともに、幼稚園・認定こども園・保育園・小学校・中学校がより一層の連携を図り、教職員がつながりを意識した取組を進めることで、一貫性・連続性のある指導を実現できるよう努めていく。						

※ 三滝中、三重平中は同一中学校区として取組を進めているため。

指標	基準値 R1	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑤地域人材を活用した 取組や出前講座 (生活リズムや万引き 防止、e ネット安心 講座等) がカリキュ ラムに位置づいて いる学校の割合	—	地域人材活用 100% 出前講座 44%	地域人材活用 100% 出前講座 90%				100%
自己評価	四日市版コミュニティスクール運営協議会等を通じて、地域人材を活用した取組が進んでいる。地域の人々の理解と協力を得た学校運営の実現に向け、今後も地域協力者の活用を支援していく。 青少年育成室の出前講座については、ネットや SNS 利用者の低年齢化により小学校からの「e-ネット出前講座」の要請が増加している。今後もネットや SNS 等と上手に付き合っていくことができるよう、子どもへはもちろん保護者への啓発を支援していく。						

指標	基準値 R1	R4※	R5	R6	R7	R8	目標値
⑥教職員が、校内外 の研修や研究会に参 加し、その成果を教 育活動に積極的に反 映させている学校の 割合	42%	56%	81%				100%
自己評価	多様化したニーズに合わせた講師の選定や、研修内容をより実践的なものにした。また、放課後を利用したオンライン研修を開設することで、より研修会に参加しやすくなったといえる。今後も継続して研修内容や形態を見直し、より教育活動に生かせるもの実践できる研修体制を構築していく。						

※ 令和4年度全国学力・学習状況調査の学校質問紙の設問から本項目が無くなったため、教育支援課が毎年度独自に小中学校教職員対象に調査している研修活用調査の設問「受講した講座内容を教育活動に活用しましたか」の回答において、肯定的な回答をした教職員の割合が100%の学校の割合を達成状況とした。

指標	基準値 R2	R4	R5	R6	R7	R8	目標値
⑦学校施設整備計画に基づく施設整備の実施率 ^{※1}	小学校 2% ^{※2} 中学校 7% ^{※2}	小学校 22% 中学校 14%	小学校 33% 中学校 24%				小学校 74% 中学校 48%
自己評価	高花平小学校の校舎改築工事を完了すると共に、羽津小学校、大矢知興譲小学校、下野小学校、富洲原小学校、三重西小学校、常磐中学校、三滝中学校、富洲原中学校の大規模改修工事など計画していた整備を実施し、良好な学習環境の確保と施設の長寿命化を図った。						

※1 令和2年度からの総合計画にあわせ、令和11年度に100%の目標達成とする整備計画。

※2 令和2年度からの整備計画のため、令和2年度の実施率を記載。

7 教育施策評価委員の提言及び助言（総括）

織田 泰幸 委員（三重大学教育学部教授）

1. 基本目標 2 「こころとからだの健全な育成」

「人権教育の充実」とかかわって、授業見学をした人権教育は主体的な自己選択・自己決定、問題解決能力、多様性の尊重、差別やいじめを許さないこと子どもの育成と関わっている。四日市市では人権教育が「非認知能力」の育成という課題と結びつけてとらえられているという。「非認知能力」は、IQ や学力テストで計測される認知能力とは異なり、忍耐力、社会性、意欲的といった人間の気質や性格的な特徴のようなものを指している（中室牧子『学力の経済学』ディスカバー21、2015年）。実際に参観した人権教育の授業では、メディアリテラシーとして情報の確かさ・情報源（ソース）は何かを確認することの重要さに言及されていた。「非認知的能力」の育成を基礎としつつ、現代の子どもたちの実態に即した新しい教育実践を創造するための試みとして非常に興味深いものであった。

「体力・運動能力の向上」とかかわって、体育の授業を見学して感じたのは、私自身の中学生の時代の体育とは基本となる考え方が異なっていることであった。例えば、かつては運動が「できる」／「できない」、あるいは運動の能力が「ある」／「ない」といった観点が強かったように思うが、今回の見学した授業では、運動の「楽しさ」を体感することを入り口として、自分と他者との関係をどう構成するか、一定のルールの下で道具（例：今回はボール）にどう働きかけるか、といった観点が意識されていた。個人的な能力の優劣を競うというよりは、他者と一緒に、（テクノロジーを活用しながら）協力して楽しむことができるかが授業の全体として大切にされているように感じられた。

2. 施策の重点「ICTスキル」の効果的な活用

授業見学をした ICT の活用については、児童・生徒のスキルの向上というよりは、むしろ学校における教員側のスキル向上が課題となるように感じられた。これまでに観察した限りでは、校内における ICT 推進の立場にある教員は若手である傾向がみられたし、年配の教員ほど授業において ICT を積極的に活用することは難しくなることが予想された。「テクノロジーについては若い人ほど多くの情報と技術を持っており、彼らから学ばないと貴重な機会を逃す」（小杉俊哉『リーダーシップ 3.0』祥伝社、2013年）。この指摘にあるように、特に年配の教員であればあるほど、自分よりも上の世代だけでなく、下の世代の教員から積極的に学び、場合によっては児童・生徒からも学ぶような姿勢や態度を持つことが重要になると思われる。

3. 四日市市教育委員会としての新たな施策の創造へ向けて

これまでの『教育委員会の点検・評価報告書』をあらためて眺めてみると、四日市市教育委員会は、「できること」「やるべきこと」について、考えられるほとんどすべてのことに、時に先進的に取り組んできたように思われた。これから四日市市教育委員会として新たな施策を創造して実現するためには、県外で評価の高い施策や独自の取り組みをおこなっている教育委員会を訪問して、優れた取り組みから学び続ける機会をいっそう増やしていくことが必要になるだろう。今後は、各学校の教職員が県内外の優れた先進事例から学ぶ研修の機会を確保するだけでなく、教育委員会事務局の職員が同様の学びの機会を十分に確保するための充実したご支援をお願いしたい。

高田 晴美 委員（四日市大学総合政策学部教授）

1. 令和5年度の重点評価項目について

【基本目標2：こころとからだの健全な育成（人権教育の充実）】

「人権教育の充実」について、授業視察で内容をよく練られた授業を拝見し、これが1回限りの学びではなく、一連の学びに繋がっていくものとして機能できればよいと思った。特に外部講師の授業の場合、日常的な授業とは別だでのイレギュラーなイベントとして認識されやすい。それではもったいないので、別の日にもディスカッションなどをしてより深め、定着できるものにしていくとよいだろう。誹謗中傷かどうかはともかく、誰かに対してコメントをするにも、ネット上、特に知り合いではない相手に対してする場合と、知りあい（クラスメートなど）に対してする場合では別のケースとして考える必要があるだろう。「誰に対して」「どのような内容をコメント」等、いろいろなケースを具体的に想定してみるのもよい。学校現場では、他者を排除するような言動をやめさせよう、予防しようとする際、「その人の個性を認めよ」「多様性を認めよ」というのはよいが、「みんな友達なんだから仲良くやれ」は反発を生むことが多い。どうしても気が合わない、価値観が異なるなどで友達にはなれないような相手だっている。そこを「友達になれ」というプレッシャーがかかるから、排除という拒絶反応をしたくなるのだ。仲良くやる必要はない。友達は自分で選んでもよい。ただし、クラスメートだったりチームメートだったり、協働が必要な同じ組織にいる仲間であることは確かだ。社会人だって会社の同僚はそうだろう。同僚みなと友達にはならないが、合わなくても仕事仲間としてうまくやっっていこうとはする。従って、友達にはならなくてもいいが、仲間として、組織を円滑にするために、他者もその人として認める、排除はしない、仕事仲間と認識する、ということが子供たちにもできれば、いじめなどは減らせるのではないだろうか。

【基本目標2：こころとからだの健全な育成（体力・運動能力の育成）】

「体力・運動能力の向上」について、授業視察では体育嫌いな生徒でも体を動かすことが楽しくなる（できないことによる劣等感に苛まれずにすむ）ような内容（最近の若者に人気の曲に合わせたダンス要素も兼ねたポップな運動など）に工夫されており、感心した。「新5分間運動」やオリジナルの準備運動等、準備運動自体が無味乾燥なものではなくそれ自体が楽しめかつ運動機能の向上にもつながる内容になっており、それを四日市市の教員間で共有しているとのこと、是非ともそれをより進め、さらに進化させていただきたい。もちろん教育なので、「できない」を「できる」にしていくことも重要ではあるが、運動が苦手な生徒はどうしても「やってもやってもやはりできない」ままになりがちである。また、それがトラウマ体験として記憶に残りやすい。「できているのかどうかは微妙だけど体を動かすのは楽しい」という体育の授業であると、体育嫌いを減らせるであろうし、授業以外でも、日常的に体を動かすことにもつなげやすいであろう。

2. 継続評価項目について

「ICTの効果的な活用について」は、評価委員会兼教育懇談会でも話がでたが、学校内でうまくそれを進めるキーパーソンがいるかどうか、全教員がキーパーソンからノウハウを学べる有効な仕組みがあるかどうかにかかっているように思われる。今はまだタブレットをうまく教育に活用する途中の段階で、うまく活用できている場面と、むしろタブレット操作に気を取られて、思考が浅くおろそかになっている場面があるように見受けられた。大学のゼミ活動などでも、学生たちに発表をパワーポイントで準備させていると、スライドの見栄えなど表面的なところに気がいってしまい、内容を深める方に

意識が向かない傾向にある。ICT が、翻弄されるツールではなく、広げ繋げつつも深めるためのツールとして活用できるよう、今後も工夫が必要となってくるであろう。

全体的に、基本目標を達成するためはかなり試行錯誤して取り組みを行い、進め、それなりに効果も出せているという印象であった。これらの取り組みが、今回だけ、この科目だけ、この範囲だけにとどまらず、多方面に有機的につながっていければ、面白い教育ができそうである。

<参 考>

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。